

第2回 知多市家庭系収集ごみ有料化検討会議（要約）

○日 時：平成26年8月8日（金）14時00分～16時00分

○場 所：知多市役所1階多目的会議室

○出席者：委 員（学識経験者） 2名

委 員（市内在住者）10名

事務局（市職員） 7名

1 議題

(1) 第1回検討会議における意見について

<主な質疑・意見など>

【Q1】 ホームページでの公表についてはどうなっていますか。

【A1】 会議の資料と議事内容の要約をホームページに掲載しています。

(2) ごみの減量に関する施策について

<主な質疑など>

【Q1】 可燃ごみの中で、生ごみを減量するには、他市の例を見ても堆肥化しかないと思います。知多市では下水道汚泥でメタン発酵を行っていると聞いていますが、生ごみもメタン発酵によってエネルギー源としての利用を考えてはどうですか。

【A1】 すぐに市で事業をやることは難しいと考えています。民間事業者と協力して実施している自治体の例や、近隣市で生ごみのメタン発酵について検討していくという情報もありますので、方法や導入可能な地区などを研究しながら、将来的に検討していくべき方法の1つであると考えています。

【Q2】 下水処理施設を拡大し、タイアップして生ごみを処理できませんか。

【A2】 知多管内の公共下水処理施設の汚泥を広域処理する方向となっている中で、昭和58年度完成の南部浄化センターは設備が老朽化しており、施設の拡大は難しいと考えています。

【Q 3】 生ごみを堆肥化して、貰い手があるのですか。

【A 3】 堆肥化には、堆肥の利用先も合わせて検討する必要があると考えています。

【Q 4】 集合住宅などでは、生ごみを堆肥化しても使い道がありません。堆肥の買い取りや利用できる人に譲渡できるような制度がある自治体はありますか。

【A 4】 堆肥を自ら利用できない方から、安い価格で買い取るか、希望者に提供する仕組みのある自治体はあります。

また、生ごみを分別収集し堆肥化している自治体もありますが、都市部での収集の困難さや費用などの面から自治体全域ではなく、住宅団地などの一部の地区に限定して実施しているようです。

【Q 5】 家庭系収集ごみ有料化基本計画は10か年の計画ですか。

【A 5】 今回は、家庭系収集ごみの有料化の取り組みを始めるに当たっての計画で、計画期間も含めて検討していきますが、東海市とのごみ処理施設統合の目途である約10年後が1つの節目となると考えます。

例えば、家庭系収集ごみの有料化とそれに伴う施策の取り組みが短期、東海市との施設統合までが中期、その先が長期といったイメージで考えることもできるのではないのでしょうか。

また、新たな施策などは、計画期間内では検討や研究といった位置付けとなるものもあるのではないかと考えています。

【Q 6】 他市の施策の中で、有効性が高い施策や力を入れている施策は何ですか。

【A 6】 生ごみ減量として、堆肥化容器・機器購入補助や生ごみ処理剤（EM処理剤、アスパ等）の配布が行われています。知多市では、アスパをリサイクルプラザで無料配布していますが、堆肥化容器・機器購入補助事業は既に終了しました。

また、ごみの排出指導などを行うごみ減量推進員などの制度があります。

【Q 7】 他市の事例のほとんどは、知多市でも取り組んでいます。取り組んでいないものは、ごみ減量推進員制度だけのようですが、どのような制度ですか。

【A 7】 ごみの排出指導を地域の方に行っていただく場合には、ごみと資源について熟知の方が必要であり、排出者とのトラブル回避のためにも、行政が推進員の委嘱や研修会を行うなど、行政との関与が必要であるための制度と考えています。

知多市では、資源の地域回収には地域の方の立ち会いがあることで、指導員を配置しているような形になっていますが、ごみの排出時には市が直接、関わっていないので、排出指導をする方を配置する場合には、推進員の位置付けなどについて、検討する必要があると考えています。

【Q 8】 **ごみ減量推進員制度がある自治体は、その機能性や効果についての評価をしていると思いますが、その評価についてはどうなっていますか。**

【A 8】 今回はそこまで把握していませんので、再度調査し、次回以降の会議で報告します。

＜主な意見など＞

【1】 ごみの減量には、多くの経費が掛かります。生ごみの堆肥化などを行っても堆肥の使い道がなければ、経費が掛かっただけになってしまいます。メタンガスのように資源として使えれば、掛けた経費より大きくなって還ってくるということも可能です。このようなことを視野に入れた検討を本格的に行っていけば、長期的に見ると、知多市の財政を見ていく上でもよいことであると思います。

【2】 一般の市民には、生ごみをメタン発酵して市に利益として戻ってくる「循環」というところまで考えが及ばないと思います。家庭系収集ごみ有料化基本計画を10か年の計画とするならば、10年先に人口がどうなるか、まちの形態がどうなるのかということを含めて議論を進めた上で、メタン発酵なども目指して、いろいろな取り組みを考えて欲しいと思います。

【3】 他自治体で行われている施策について、それぞれにかかる費用や効果を調べ、費用対効果のある順に優先順位をつけ、短期・中期・長期に分けて案を出してから取り組むとよいと思います。

【4】 私の地区では、春から秋に非常に多くの草が収集場所に出されています。場所によっては、出ているごみの3分の1を占めるところもありました。

排出量が多い物に的を絞った施策をしていかないと、家庭系収集ごみの有料化を実施しても、ごみの量はそのまま、ということになってしまわないかと思います。草は堆肥化できるので、ぜひ取り組んでいただきたいと思います。

【5】 草を燃やしている方を時々見かけますが、有料化に伴って草を燃やす家庭が増えるのではないかと心配です。この問題への対応策を考えて欲しいと思います。

【6】 知多市の今の分別は、高齢者にとっては非常に楽であると思います。生ごみを分別することについて、生ごみをうまく再生することができればよいのですが、生ごみとその他のごみを分けることは大変だと思います。住民としては、あまり細かく分別するのは嫌だなと思います。

【7】 資源として出されたものが、どのように再利用や再生利用されるのかということをしかりと市民に教えていくということが大事であると思います。どうなるかということが分かれば、資源の出し方に対する理解が深まり、適正なごみの排出につながると思います。

【8】 ごみ減量推進員の制度が知多市にはないこともあり、何をごみとして出しているのか、何を資源として出すのかといった教育をきちんと受けていない人が多くいます。家庭系収集ごみの有料化を実施する際には、この制度を設けて、住民会議などを何回か開催するなどといった取り組みも合わせてやって欲しいと思います。

【9】 分別に関する指導を誰にお願いするのかを決めることは難しいと思います。例えば、コミュニティの役員さんに依頼すると負担が大きくなることで、役員が敬遠されてしまいます。生活に補助が必要な方に接する民生委員、生活支援や訪問介護をしている方との協力、ごみ減量推進員の委嘱など、いろいろな方法があると思いますが、費用が掛かることでもあります。

地区ごとにアドバイザーのような方がいれば、地域の特性に合わせ、ごみの減量方法などを検討できるのではないかと思います。今後、パブリックコメントなどで、他の市民の方の意見も集約されていくと思います。

- 【10】 介護保険制度が大きく変わろうとしている中で、軽度の要支援者の生活支援についてのヘルパー利用などが、保険給付の対象でなくなる見込みです。こうした方については、自分自身でごみを分別することが難しく、ごみと資源が分別されずに収集場所に出されてしまうかもしれません。もし、そのようになるのであれば、ごみ減量推進員を置くなど、地区の中でごみに関心のある人たちを置くことが必要ではないかと思います。

(3) 資源化施策について

<主な質疑など>

【Q 1】 **資源の売却代について、他の自治体では地区に還元されていないのですか。**

【A 1】 他の自治体では、売却代は市の歳入とし、集めた資源の重量に対しての報奨金を支払うという形で地区に一部を還元しています。

【Q 2】 **資源回収の当番の時間について、なぜ平日の朝7時から8時までという時間設定になっているのですか。**

【A 2】 朝8時30分から市が収集に取り掛かるので、それまでに出し終わっていただく必要があるため、回収日の朝8時までという時間設定にしています。

また、地域での資源回収を開始するに当たり、回収場所を約100世帯に1か所となるように設けました。これは、1回ごとの当番者数は地区によって異なると思いますが、100世帯であれば、月1回の地域回収で1世帯当たり年に1回程度の当番となると試算し、その程度ならば、地域にご無理、ご協力がいただけるのではないかとということで設定したものです。

【Q 3】 **資源の地域回収の立ち合い当番を夜にして、地域で夜に集めて、朝8時半以降に市が回収することはできませんか。**

【A3】 資源回収の場所は常設ではなく、間借りしている状況で、資源を前夜から出されるとその分占領してしまいますが、地区施設の用地や屋根があるところなどでは、前夜から資源を出すことを認めている地区もあると聞いています。地区内で調整ができ、夜間に資源を出してもやっていけるという地区については、可能なところからやっていくということも考えていく必要があると考えています。

【Q4】 **資源の回収率を高めるためには、皆さんが動きやすい時間に資源回収の時間を設定し直す必要があるのではないのでしょうか。**

【A4】 資源回収率を高める取り組みとして、平成16年度にモデル地区で月2回の地域回収を3か月間実施したことがあります。資源回収量は若干増えましたが、収集経費が増加し、立ち合い当番回数の増加もあり、継続はされませんでした。

資源の地域回収も全市で一気に始めた訳ではなく、順次、地区に説明をして、実施可能な地区から開始しました。時代、世代、状況が変わっている中で、今回の検討を通じて、地区と協力して見直すつもりで皆さんに意見を伺っています。

＜主な意見など＞

【1】 資源回収の立ち合い当番に出る人は、女性や仕事を退職された方が大半で、働いている世代の男性はほとんどいません。しかし、当番の時間は、女性にとっても家事などで忙しい時間帯であり、かなりの負担になっています。時間や曜日をずらして、働いている男性も参加できるような形になれば、女性の負担が減って助かるので、そのことも検討して欲しいです。

【2】 資源の分別について、市民の意識改革のようなことができないかと思います。

知多市の財政が厳しいということは、生活の中で感じるもので、多くの方が家庭系収集ごみの有料化は仕方ないと考えていると思いますが、その一方で、有料化は嫌だという思いもあります。市民のこの葛藤の気持ちも汲んでもらいつつ、行政の側も「やれない」「できない」「ダメ」ということではなくて、努力して、一歩でも進んで欲しいと思います。

【3】 資源の地域回収の時間帯について、いろいろ意見がありました。地区によって事情も違うと思います。夜から出すと大変なことになるという声もあるので、地区によって自由に取り決めをできるようにしていただければいいと思います。

【4】 資源の地域回収の頻度は月1回でも良いのですが、時間と曜日をもう少し考えることができないのかと思います。また、立ち合い当番は年に1回でも負担です。

【5】 近隣の町では、道路上に資源の回収ステーションがあり、朝早くから一杯になっている光景をよく見かけました。話によると、前日の夜から出してもよく、当番の人もいないとのことでした。知多市でも同じようなことをした場合、最初はぐちゃぐちゃになるかもしれないが、日常のことになれば、きれいになると思います。

「知多市はできない」ではなく、「知多市もやってみよう」ということを考えないと、ごみの減量化を進めていくことはできないと思います。

【6】 私の地区では、可燃ごみの中に紙類や包装容器が多く混入しているのをよく見ます。ダイレクトメールなどの紙類は、ごみとして出されてしまうのが現状だと思います。毎年、資源の出し方についての印刷物が市から各戸に配布されますが、日常生活の中で、ほとんど分かっていないのが現実だと思います。ごみと資源の分別について、市がたゆまぬ努力をして常にPRしていくほかないと感じました。

また、ごみ減量推進員制度は、ごみと資源の分別を進める上で大きな要素であると思うので、考えていくべきだと思います。

【7】 現在の地域回収は、地区の公園などが回収場所となっていて、独身の方にとっては場所も分からないし、かなりの負担になっていると思います。他市の例では、ごみ収集場所で資源回収を行っているところも結構あるようなので、そのようにすれば、資源を出しやすくなるのではないかと思います。

知多市でも、資源として多く出るペットボトルや空き缶だけでもいいので、ごみの収集場所でも資源回収を行うことを検討して欲しいと思います。

【8】 ごみの分別について、子どもに聞かれても答えられないことが多くあります。子どもや男性にも分かりやすく、馴染みやすい方法があればいいと思います。

【9】 現在、子ども会でも資源回収を行っていますが、子どもたちはただやらされているだけで、面倒くさいと思っている子どもが多いと思います。

例えば、子どもにとってペットボトルが一番身近なごみであり、資源なので、各学校で子どもたちが主体となって集めて、リサイクルプラザに持っていくということができないのかなと思います。ペットボトルがどのようにリサイクルされるかということも合わせて勉強することができれば、実感がわいて取り組みやすくなると思います。学校とタイアップしてこのようなことができれば、ごみや資源に対する子どもの意識も変わってくるのではないかと思います。

【10】 面倒くさいことに対しては、報酬に当たる部分があると取り組みやすくなると思います。そうしたものについても検討できればいいと思います。

【11】 第1回の検討会議のときに、ごみの減量による二酸化炭素の削減量が分かるという提案に非常に感動しました。

二酸化炭素の削減量が数字で分かれば、細かい取り組みが分からなくても、地球環境に対してよいことをしているという実感を持つことができ、ごみの減量に取り組みやすくなると思うので、ぜひ取り組んで欲しいと思います。

【12】 私の地区は駅に近いため、地区外の方が通りすがりにごみを出していくことが多く、違反ごみもあり、地区の世帯数の倍くらいは出ていると思います。放置された違反ごみを誰が片付けるのかという話になり、地区の人がごみや資源の分別をいくら頑張っても、こうしたことがあると頑張りが無駄になってしまうので、できるだけ自分の地区で出して欲しいです。資源化については、徐々に徹底していければいいと思います。